

2020年10月9日

実行委員
エキストラ
審査員
参加者
様

溺水防止救助救命本部
パトロール能力向上委員長

第5回JLAシミュレーション審査会【葉山会場】

実施細部 通知

1. 実行委員会・エキストラ・審査員構成を次ページ以降に表記

2. タイムテーブルを次ページ以降に表記

3. 審査票

別紙1から別紙5の通りとします。

4. 配点割合

別紙6の通りとします。

5. 感染対策など

別紙7-1、7-2の通りとします。

当該参加チームは、審査会当日14日前（2020年10月10日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に参加者分を受付時に提出願います。

審査員及び係員も、審査会当日14日前（2020年10月10日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に受付時提出願います。

6. その他

当日までに変更あった場合は、当日の審査会当日の開会式で伝達します。

問合せ先

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F 担当 中山

TEL：03-3459-1445 FAX：03-3459-1446

<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/>

（問合せ時間 12：00～18：00）

実行委員会配置

実行委員長 統括 進行

菊地 太 溺水防止救助救命本部副本部長

次番者テント担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎小林 俊樹 ライフセービングシステム開発委員長
2. ○内田 直人 防災対策室長

実施チームテント担当 資器材定位置確認担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎内田 直人 防災対策室長
2. ○小林 俊樹 ライフセービングシステム開発委員長
3. 坂本 陸 西浜サーフライフセービングクラブ
4. 城田 嵐 横浜海の公園ライフセービングクラブ
5. 小野 慧伍 九十九里ライフセービングクラブ
6. 山本 美奈 九十九里ライフセービングクラブ
7. 金井 浩郎 九十九里ライフセービングクラブ
8. 尾島 みさき 九十九里ライフセービングクラブ

審査票集計担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎石川 仁憲 溺水防止救助救命本部副本部長
2. ○佐藤 洋二郎 アカデミー本部副本部長
3. 小林 俊樹 ライフセービングシステム開発委員長

テント等会場設営撤収担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎小林 俊樹 ライフセービングシステム開発委員長
2. ○中川 健 パトロール能力向上委員長
3. 安達 雄太 勝浦ライフセービングクラブ
4. 篠田 敦子 館山サーフライフセービングクラブ
5. 安田 春暁 九十九里ライフセービングクラブ
6. 齋藤 愛子 大竹サーフライフセービングクラブ
7. 鶴園 宏海 大竹サーフライフセービングクラブ
8. 楠本 慶明 常陸サーフライフセービングクラブ
9. 大熊 明日香 銚子ライフセービングクラブ
10. 齋藤 良太 鎌倉ライフガード

記録担当

1. 記録用動画撮影 大森 修登 九十九里ライフセービングクラブ

弁当振り分け担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）

1. ◎小林 俊樹 ライフセービングシステム開発委員長
2. 中川 健 パトロール能力向上委員長
3. 中山 昭 事務局次長

※ 上記に係員の係員を配置しましたが、審査員、エキストラ、J L A事務局の皆さんのご支援が必要ですので、お手すきの際は、各セクションご協力のほど宜しくお願い致します。

エキストラ

- 協力公的救助機関
2020年10月24日(土) 神奈川県三浦郡葉山町下山口 大浜海岸
葉山町消防本部 救急隊員資器材
- 協力公的救助機関、医療機関車両等
なし
- 救急隊員エキストラ (◎はリーダー、○はサブリーダー)
◎村田 恭隆 大竹ライフセービングクラブ
○後関 裕輔 東京消防庁ライフセービングクラブ
山崎 敦 西浜サーフライフセービングクラブ
岸田 興喜 東京消防庁ライフセービングクラブ
寺尾 匡人 東京消防庁ライフセービングクラブ
- エキストラ (◎はリーダー、○はサブリーダー)
◎中川 健 パトロール能力向上委員長
○安達 雄太 勝浦ライフセービングクラブ
篠田 敦子 館山サーフライフセービングクラブ
安田 春暁 九十九里ライフセービングクラブ
齋藤 愛子 大竹サーフライフセービングクラブ
鶴園 宏海 大竹サーフライフセービングクラブ
楠本 慶明 常陸サーフライフセービングクラブ
大熊 明日香 銚子ライフセービングクラブ
齋藤 良太 鎌倉ライフガード
- AED リモコン操作 トランシーバーによる仮想消防 ダミー容態変化呼称
菊地 太 溺水防止救助救命本部副本部長

審査員構成

- 2020年10月24日(土) 神奈川県三浦郡葉山町下山口 大浜海岸
長 横浜海の公園ライフセービングクラブ推薦
長 葉山ライフセービングクラブ推薦
員 南伊豆ライフセービングクラブ推薦
員 東海大湘南校舎ライフセービングクラブ推薦
長 大竹サーフライフセービングクラブ推薦
員 逗子サーフライフセービングクラブ推薦
長 西浜サーフライフセービングクラブ推薦
員 鹿嶋ライフガードチーム推薦
員 銚子ライフセービングクラブ推薦
員 熱川ライフセービングクラブ推薦
員 横須賀海上保安部 警備救難課 救難係長
長 葉山町消防本部 主任
員 J L Aスーパーバイザー
員 J L Aスーパーバイザー
M J L Aメディカルダイレクター
M J L Aメディカルダイレクター
長 J L Aアカデミー本部推薦
員 J L Aスポーツ本部推薦
員 J L A教育本部推薦
審 溺水防止救助救命本部長
計 溺水防止救助救命本部副本部長
座間 吉成
高橋 啓一
佐滝 悠太
福島 圭介
有賀 滉
柳原 拓実
遠藤 勝久
西田 昌貴
米澤 柚衣
石田 晃裕
永田 直史
近藤 毅歩
中見 隆男
足立 正俊
北村 伸哉
吉澤 大
村井 亜紗子
西山 俊
大山 玲奈
石川 仁憲
菊地 太
様
- 審査票担当 (各審査員の氏名前に記載されている記号は以下の通りとします。)
長 監視長審査担当
員 監視員審査担当
M 救護手技審査担当
審 審査長全体審査担当
計 時間審査担当
※ 審査票は、別紙の通りとします。

2020 年 10 月 24 日（土）神奈川県葉山会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:00	係員集合 会場設営開始	
08:00	会場設営完了 エキストラ説明会開始	
08:30	エキストラ説明完了 審査員・救急隊エキストラ説明開始	
09:00	審査員説明終了 実施チーム受付開始	
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合	
10:00	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 入谷拓哉 理事長 ご挨拶 葉山町長 山梨崇仁（やまなしたかひと）様 ご挨拶 三管区海上保安本部 警備救難部 救難課長 寺門 嘉之（てらかどよしゆき）様 紹介 講評 横須賀海上保安部 警備救難課長 吉田 憲明（よしだのりあき）様 紹介 審査員 横須賀海上保安部 警備救難課 救難係長 永田 直史（ながたなおふみ）様 紹介 審査員 葉山町消防本部 主任 近藤 毅歩（こんどう たけほ）様 紹介 審査員 横浜海の公園ライフセービングクラブ 座間 吉成 紹介 審査員 葉山ライフセービングクラブ 高橋 啓一 紹介 審査員 南伊豆ライフセービングクラブ 佐滝 悠太 紹介 審査員 東海大湘南校舎ライフセービングクラブ 福島 圭介 紹介 審査員 大竹サーフライフセービングクラブ 有賀 滉 紹介 審査員 逗子サーフライフセービングクラブ 柳原 拓実 紹介 審査員 西浜サーフライフセービングクラブ 遠藤 勝久 紹介 審査員 鹿嶋ライフガードチーム 西田 昌貴 紹介 審査員 銚子ライフセービングクラブ 米澤 柚衣 紹介 審査員 熱川ライフセービングクラブ 石田 晃裕 紹介 審査員 JLAアカデミー本部 村井 亜紗子 紹介 審査員 JLAスポーツ本部 西山 俊 紹介 審査員 JLA教育本部 大山 玲奈 紹介 審査員 JLA MD 君津中央病院 救命救急センター長 北村 伸哉 先生 紹介 審査員 JLA MD 厚生労働省関東信越厚生局医療課医療監視員 医師 吉澤 大 先生 紹介 審査員 JLAスーパーバイザー 中見 隆男 紹介 審査員 JLAスーパーバイザー 足立 正俊 事務連絡及び補足説明</p>	
10:30	第1回目実施 熱川ライフセービングクラブ	
10:45	第2回目実施 銚子ライフセービングクラブ	
11:00	第3回目実施 鹿嶋ライフガードチーム	
11:15	第4回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ	
11:30	第5回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ	
11:45	第6回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ	
12:00	審査員・係員・エキストラ 昼食	
13:00	第7回目実施 東海大学湘南校舎体育会ライフセービングクラブ	
13:15	第8回目実施 南伊豆ライフセービングクラブ	
13:30	第9回目実施 葉山ライフセービングクラブ	
13:45	第10回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ	
14:10	<p>講演 「アミノ酸によるコンディショニングについて」 味の素株式会社 アミノサイエンス事業本部 スポーツニュートリション部 マーケティンググループ 若井 友里子（わかいゆりこ）様</p>	
14:30	各公的救助機関、MD、スーパーバイザー、他、審査長の講評 表彰 事務連絡	
15:30	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散</p>	
16:00	■事務連絡 全係員解散	

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

第5回 シミュレーション審査会【神奈川.葉山】会場レイアウト



本部テント受付にて参加者・係員・見学者含むすべての方の検温を実施します。検温実施後は、実施済みのリボンを手渡しますのでご理解ご協力の程よろしくお願い致します。



はやまクリーンプログラムベストプラクティスとは

「ひとりひとりができる葉山町の自然環境を守るための具体的な行動」です。

①ゴミは各自持ち帰る。②マイバック、マイボトルを持参する。

皆様のご協力をお願い致します。

問合せ先

溺水防止救助救命本部副本部長 菊地太

TEL : 090-7000-5762

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F 担当 中山

TEL : 03-3459-1445 FAX : 03-3459-1446

<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/>

(問合せ時間 12:00~18:00)

監視長審査票

番号	項目	小項目	点数				小計
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4	
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4	
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4	
4	有事対応 公的救助機関対応	傷病者の観察情報を把握していたか	1	2	3	4	
5		関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
6		観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
7		公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
8		搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
9		公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
10		監視長から監視員への指示は良好であったか	1	2	3	4	
11		指示に対して監視員からの応答を確認していたか	1	2	3	4	
12		継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
13	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4	
14		危険行為がなかったか	1	2	3	4	
15		資器材を丁寧に取り扱いさせていたか	1	2	3	4	
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4	
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4	
18	士気は旺盛だったか		1	2	3	4	
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点
20	総括点	最大15点					点
		合計得点	100点満点中				点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

監視員審査票

番号	項目		小項目	点数					小計
1	継続監視対応		他の監視員との連携は的確であったか	1	2	3	4	5	
2			救護活動に対しての行動は的確であったか	1	2	3	4	5	
3	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと、組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	5	
4			傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	5	
5			公的救助機関への協力体制は十分であったか 搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	5	
6			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	5	
7			他の監視員との連携は的確であったか 知り得た情報を監視員間で共有できていたか	1	2	3	4	5	
8	状況に合わせた対応		周囲の自然環境などを考慮して活動できいたか	1	2	3	4	5	
9			関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4	5	
10			資器材の取り扱いは習熟していたか	1	2	3	4	5	
11			観衆に配慮した行動ができていたか	1	2	3	4	5	
12			士気は旺盛だったか	1	2	3	4	5	
13	感染防止対策は十分であったか		最大20点						点
14	総括点		最大20点						点
			合計得点	100点満点中					点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

救 護 手 技 審 査 票

番号	項目	小項目	点数				小計
1	観察要領	周囲の状況を的確に把握し手技に移ったか	1	2	3	4	
2		観察が形式的でなかったか 全身の観察要領は的確であったか	1	2	3	4	
3		CPRなどを開始するまでの搬送があれば 安全で適切であったか	1	2	3	4	
4		CPR及び観察を開始する場所は適切であったか	1	2	3	4	
5	有事対応	気道確保の手技は適切であったか	1	2	3	4	
6		胃内容の逆流の対処は適切であったか	1	2	3	4	
7		人工呼吸が必要な場合は適切であったか	1	2	3	4	
8		必要である場合、胸骨圧迫のテンポ・圧迫の強さ・手の位置は適切であったか	1	2	3	4	
9		必要である場合、胸骨圧迫の中断は十分短かったか	1	2	3	4	
10		資器材の取り扱いは十分であったか	1	2	3	4	
11		必要である場合、AEDの使用は適切であったか	1	2	3	4	
12		監視員間の連携は十分であったか	1	2	3	4	
13		傷病者観察開始から救急車への収容中、CPRなどの手技に継続した集中力が保てていたか	1	2	3	4	
14	安全管理連携	感染防止などに配慮した行動であったか	最大20点				点
15		監視員自身の安全管理は徹底されていたか	1	2	3	4	
16		資器材を丁寧に取扱っていたか	1	2	3	4	
17		必要である場合、電気ショックの瞬間含め、AEDの安全管理に対する取扱いは適切であったか	1	2	3	4	
18		公的救助機関への申し送りは的確であったか	1	2	3	4	
19	総括点	最大12点				点	
		合計得点	100点満点中				点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

審 査 長 全 体 審 査 票

番号	項目		小項目	点数				小計
1	継続監視対応		状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4	
2			救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4	
3			全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4	
4	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	
5			傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	
6			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
7			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
8			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
9			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
10			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
11			監視長は、継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
12	状況に合わせた対応		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4	
13			危険行為がなかったか	1	2	3	4	
14			資器材を丁寧に取り扱いわせていたか	1	2	3	4	
15			資器材の取扱いは習熟していたか	1	2	3	4	
16			監視長としての指揮項目は十分であったか	1	2	3	4	
17			必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか	1	2	3	4	
18			士気は旺盛だったか	1	2	3	4	
19	感染防止対策は十分であったか		最大13点					点
20	総括点		最大15点					点
			合計得点	100点満点中				点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

時間審査票 想定

番号	項目	時間	分類	点数
1	傷病者への観察開始時間は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
2	必要であれば傷病者への気道確保は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
3	必要であれば傷病者へのAED解析開始は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
4	119番通報は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
5	傷病者の救急車内収容は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	

優＝10点 良＝8点 可＝6点 他＝5点以下
す。

実施チームの平均タイムから分類・点数は算出しま

実施チーム名

審査票総合評価配点割合

監視長審査票	30%
監視員審査票	50%
審査長全体審査票	10%
時間管理による審査	10%
救護手技審査票	別途評価

1. 各地域によって、審査票の担当者数に相違があるので、最終集計時の総合評価配点割合は上記を反映させます。
2. 審査票の内容・配点内訳・配点割合は変更ある可能性があります。

新型コロナウイルス感染症対策に基づく第 5 回 JLA シミュレーション審査会の開催について

記

標記の審査会を開催するにあたり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、下記のとおりその対策について万全を期して対応いたします。

1 昨年度の開催状況

- (1) 審査会の運営会議は、運営役員が会議室に集まり対面で行った。
- (2) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の事前の体調確認は行っていない。
- (3) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の当日の体調確認は行っていない。
- (4) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の遠方者の前後宿泊について制限をしていない。
- (5) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の移動交通手段について、公共交通及車両移動について制限をしていない。
- (6) 開・閉会式は、海岸で密集して行った。
- (7) 審査会のシミュレーション想定は、ウイルス感染症を想定しない事案で行った。
- (8) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の新型コロナウイルス感染防止対策は行わなかった。
- (9) 運営役員、スタッフ等関係者の昼食は、海岸のテント内で密集して行った。
- (10) 審査会会場に感染防止のための隔離用の救護テントは設置しなかった。

2 今年度の具体的な対策

- (1) 審査会の運営会議は、運営役員を会議室に集めずに全てオンラインで行う。
- (2) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の事前の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (3) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の当日の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (4) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の遠方者の前後宿泊については原則行わない。
- (5) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の移動交通手段について、公共交通及車両移動の際は、マスクを着用し、換気に務め、密にならないように分かれて移動する。
- (6) 開・閉会式では、全ての関係者は、マスク着用の上、2m 以上の間隔をとって海岸・屋外で行う。
- (7) 審査会のシミュレーション想定は、感染症(ウイルス感染)を想定した事案で行う。
- (8) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の新型コロナウイルス感染防止対策を行う。
 - 審査会実施エリアへの入場の際は、検温と体調管理チェックシートの提出、こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行い、マスク着用を基本とする。
 - 審査会の全ての関係者は、2m 以上の間隔を確保する。
 - 審査会中は、大きな声で会話をしないようにする。
 - 審査会で使用する資器材も、こまめにアルコール等で消毒をする。
- (9) 運営役員、スタッフ等関係者の昼食は、海岸のテント内で 2m 以上の間隔を確保して、弁当と飲み物は単独のものを用意する。
- (10) 審査会会場で発熱者、体調が悪い者が出た際は、隔離用の救護テントを設置し、医師と相談の上、地域の感染対策ガイドラインに基づいて対応する。

3 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン等

- (1) 「新しい生活様式」(厚生労働省公表)
- (2) 「ライフセービングイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」
- (3) 「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言解除後のライフセーバーの水浴場監視救護活動ガイドライン 2020」

以上

新型コロナウイルス感染症に係る体調管理チェックシート

氏 名：

所 属：

新型コロナウイルス感染防止対策のため、審査会に参加する初日の14日前から体調管理をチェックしてください。
参加前14日間チェックについては、参加の当日に受付に提出しサインをもらってください。

【活動前7日間の体調チェック】

	日付	体温	咳	痰	だるさ	その他
1		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
2		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
3		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
4		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
5		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
6		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
7		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
8		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
9		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
10		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
11		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
12		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
13		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
14		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
当日		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	

体調などで気になることがあれば記載してください

受付チェック

公表想定

各チームの事前トレーニングのために予め想定を公表しますが、一部をブラインドとします。ブラインド部分について各チーム想定し、技能及び連携能力向上に活かしてください。

時間	項目	備考
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
想定開始後 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、関係者友人A（ ）に付き添われ、『たぶんクラゲ…痛すぎる…』『痛い…』と訴え、監視本部内に侵入してくる。傷病者。水深 30 cm位の波打ち際で激痛を覚える。激痛のため終始苦悶。よく見ると右前腕に水色の触手残存物あり。 想定のおねらい： 	
想定開始後 海の家から駆け寄ってくる	胸ほどの水深から傷病者をうつ伏せて抱え上げる発見者が助けを呼ぶ 発見者は、 。遊泳中に、付近にいた傷病者の動きを不審に思い抱え上げると意識のない状態に気づき助けを呼んだが、 傷病者 傷病者バイタル：(生体、意識レベル 300) 顔面、脈は弱く、橈骨で、呼吸、LS接触後、胃内容物逆流 飯 類大量に準備)。上記状況 以外は見たまま、外傷（負荷想定は傷病者の胸部に付加想定項目を表記する。） 処置： 感染防止対策が十分なされているかの確認 感染防止着・マスク・ディスポグローブなど、ファーストが未装着だったものをセカンド・サード・監視本部がいかに連携し、最大限の感染防止対策に取り組めるかが重要な審査項目。 関係者友人Bは、LSが傷病者を水から引き上げた時に現れる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？ どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、 確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の 	
	119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
想定開始9分後	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

想定内容は、急遽変更されることがありますが、各地域でチーム間のトレーニングなど準備しておいた方がいい感染対策などを修めた想定になります。

公表想定

時間	項目	備考
0分	監視員（以下L S）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始 秒後	L S 詰所テントにクラゲ被害にあった浴客が来る	
開始 秒後	胸ほどの水深から傷病者をうつ伏せで抱え上げる発見者が助けを呼ぶ	
開始 分後まで	死戦期呼吸（L S 接触後 分間、補助呼吸実施していたら 分以降は呼吸なし） 上記直後に訓練用A E Dにより、解析開始、ショック その後、意識レベル 300、呼吸無し、脈無し、外傷無し 長い金属のネックレス 衣類含む私物は友人の車内（駐車場） 傷病者のバイタル：死戦期呼吸及びその後呼吸無し、心肺停止以外は見たまま、友人は救急隊に同乗可能 傷病者は生体のため胸骨圧迫は実施している様だけで行う 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
開始 分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始 分後	A 隊長指示で、搬送開始 それまではA 隊は観察継続	
開始 9分	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

注意事項

- 実施チームは、実施時間20分前には、係員から指定された次番実施チーム待機テントに集合し、審査開始まで離れないでください。
- 想定終了後は、実施チームは速やかに使用資器材を元の位置に戻し、次番チームの進行の妨げにならないよう配慮してください。
- 実施チームの審査前待機場所は駐車場内とし、前番の実施チームの審査はモラルの範囲で見ないものとします。
- 審査実施終了後チーム及び見学者は審査実施を見学し、見取りトレーニングとしての参加を推奨しますが、審査未実施チームへの想定内容など情報漏えいは禁止とします。
- 想定内容は、急速変更される場合がありますが、各地域でチーム間のトレーニングなど準備しておいた方がいい感染対策などを鑑みた想定になります。